

第12回 JANSセミナー

学際的な研究プロセスと 戦略的な組織づくり

異分野異業種の連携研究による看護ケア開発

日時: 2018年6月17日(日) 14:30-17:10(14:00受付開始)

会場: AP東京八重洲通り

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目10番7号 KPP八重洲ビル11階
<https://www.tc-forum.co.jp/kanto-area/ap-yaesu/ya-base/>

定員: 会場受講230名(先着順)/Web受講(会員のみ) 人数制限なし

参加費: 会場受講 会員4,000円 非会員7,000円
Web受講 会員3,000円

プログラム:

14:30 理事長挨拶

鎌倉やよい(日本看護科学学会理事長)

開会挨拶

石橋みゆき(日本看護科学学会理事/研究・学術情報委員会委員長)

14:40 第1部 講演

学際的な研究プロセスと戦略的な組織づくり

真田弘美(日本看護科学学会理事/東京大学)

バイオロジスト・看護学研究者・企業の連携—バイオロジストの立場から

峰松健夫(東京大学)

病院・看護学研究者・企業の連携—企業の立場から

田邊秀憲(テルモ株式会社/東京大学)

16:30 第2部 ミニパネルディスカッション

現実的な取り組みに向けて、できること・やるべきこと

ファシリテーター 荒木暁子(日本看護科学学会研究・学術情報委員会/日本看護協会)

パネリスト

真田弘美(日本看護科学学会理事/東京大学)

福井小紀子(日本看護科学学会研究・学術情報委員会/大阪大学)

大久保暢子(日本看護科学学会研究・学術情報委員会/聖路加国際大学)

申し込みは2018年4月16日(月)正午より開始します

詳細はウェブサイトhttp://jans.umin.ac.jp/seminar/next_seminar.htmlをご覧ください

第12回JANSセミナー

学際的な研究プロセスと戦略的な組織づくり

異分野異業種の連携研究による看護ケア開発

JANSは、優先的に取り組むべき「看護・保健分野の政策課題」を明確にすること、影響力の強い研究およびそれを可能にする研究体制づくりの方向性を明らかにすることを目的に調査を行い、平成28-29年度にかけて研究推進のStrategic Planを作成いたしました。

研究推進のStrategic Planは、「①学際的研究の推進」、「②国際的研究活動推進」、「③萌芽的研究課題への挑戦」の3つの柱から成ります。

今回のセミナーは、研究推進のStrategic Planのうち「①学際的研究の推進」を踏まえ、産学連携によるアドバンスな看護技術開発における研究組織と運営に関する工夫を会員の皆様と共有し、今後学際的研究に取り組むための一助となるよう企画いたしました。

皆様のご参加を心からお待ちしております。

公益社団法人 日本看護科学学会 理事長 鎌倉 やよい
同 研究・学術情報委員会 委員長 石橋 みゆき

■第1部 講師紹介

真田弘美(日本看護科学学会理事/東京大学)

1979年に聖路加看護大学にて学士(看護学)を取得後、1987年にクリーブランドクリニック聖路加分校ETスクールを修了。1989年から1990年にシカゴのイリノイ大学大学院看護学にて研修。1997年に金沢大学にて博士(医学)を取得し、1998年に金沢大学にて看護学の教授に着任。2003年に東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻老年看護学分野の教授として赴任。2006年に創傷看護学分野を設立し、教授を務め、専攻長、学科長を経て現在に至る。2017年より、グローバルナーシングリサーチセンターセンター長を兼任。東京大学着任後、創傷看護学分野を創設し、2つの寄付講座、3つの社会連携講座の協力講座の教授として異分野異業種の連携研究を推進。2013年には看護理工学会設立し、初代理事長となる。

峰松健夫(東京大学)

1995年筑波大学第二群農林類(生物資源学類)にて学士(農学)を取得後、2004年同大学大学院にて博士(農学)を取得。研究員を経て2008年東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学助教、2011年特任講師。2017年より社会連携講座スキンケアサイエンス特任准教授。バイオロジストとして、スキンプロットングなど非侵襲的な看護技術の開発に従事。

田邊秀憲(テルモ株式会社/東京大学)

2001年青山学院大学にて学士(工学)を取得後、2003年同大学大学院にて修士(工学)を取得。2003年テルモ株式会社入社。2012年東京大学大学院医学系研究科社会連携講座アドバンスナーシングテクノロジー共同研究員、2017年より客員研究員。企業に所属する工学専門家の立場から、臨床のニーズに基づいた医療機器の開発に従事。

■第2部 パネリスト紹介

福井小紀子(日本看護科学学会研究・学術情報委員会/大阪大学)

1993年東京大学にて学士(保健学)取得後、東京大学医学部附属病院看護師、米国ワシントン大学医学部特別研究員を経て、2000年東京大学大学院にて博士(保健学)取得。首都大学東京講師、千葉大学准教授、厚生労働省医政局看護課在宅看護専門官を経て、2009年日本赤十字看護大学准教授、2012年教授。2017年より大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻に教授として着任。ITシステムやビックデータを活用し、次世代を見据えた在宅・施設・病院の看護に関する学術研究・政策研究に従事。

大久保暢子(日本看護科学学会研究・学術情報委員会/聖路加国際大学)

1998年聖路加看護大学にて学士(看護学)を取得後、2006年同大学大学院にて博士(看護学)を取得。2000年聖路加看護大学助手、2006年講師、2008年より聖路加国際大学看護学部准教授に着任。Reconditioningを目的とした背面開放座位プログラムの構築などエビデンスに基づいた新たな基礎看護技術の創生に従事。